

事務事業名	コード1	4100	交通安全対策事務費	事業種別	<input type="checkbox"/> 国土強靱化地域計画	課	市民生活課				
	コード2				<input type="checkbox"/> 新市建設計画	所属班	市民生活支援班				
施策体系	施策	31	交通安全対策の強化	事業種別	<input type="checkbox"/> 総合戦略	電話番号	62-5396	内線	128		
	施策の展開	62	交通安全活動の充実		<input type="checkbox"/> 復興計画	予算科目	会計				
				事業種別	<input type="checkbox"/> 定住自立圏構想	科目	一般会計				
					事業種別	<input type="checkbox"/> 行政改革アクションプラン	根拠法令	交通安全対策基本法、旭市交通安全対策会議条例、旭市交通安全対策推進委員会設置要綱、旭市交通安全指導員設置条例			
				事業種別		<input type="checkbox"/> 主要事業	款	2	項	1	目
					事業種別	<input type="checkbox"/> 簡易評価					

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 平成__年度～ <input checked="" type="checkbox"/> 開始年度不詳 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 平成__年度～ 平成__年度まで ※全体像を記述→	①春、夏、秋、冬等の各種交通安全運動へ参加及び街頭やイベントにおいて交通安全の啓発活動を実施。 ②小中学校、保育所等の児童・生徒や高齢者を対象とした交通安全教室を実施。 ③小学生に対して、街頭で交通誘導及び交通指導を実施。 ④市イベント・学校行事・地区行事等へ交通指導員の協力申請があった場合の指導員派遣を実施。 ⑤交通安全啓発看板等の設置・管理。 【業務の流れ】 ①会議資料等準備 → 交通安全運動合同会議開催 → 啓発品準備 → イベント・街頭で啓発活動 ②指導員の委嘱 → 交通安全教室の日程調整 → 交通安全教室の実施。 ③学校・シルバー人材センターとの打合せ → シルバー人材センターとの街頭指導委託契約 → 小学校通学路において、交通誘導や交通指導を行う。 ④関係団体等からの指導員派遣申請 → 交通指導員連絡協議会へ要請 → 指導員が現地で交通誘導等実施。 ⑤交通安全対策要望 → 関係課・団体等と現地確認 → 対策の1つとして、交通安全啓発用電柱幕等の設置。

(2) トータルコスト

① 費目の内訳(26年度の実績)	単位:千円	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)	
1.報酬	5,865	5,848	5,863	5,865	6,105	
2.費用弁償	1,395	1,396	1,383	1,395	1,524	
3.消耗品費	492	509	526	492	575	
4.委託料	2,036	1,976	1,965	2,036	2,258	
5.その他	2,246	1,193	1,380	2,246	1,474	
② 特定財源の内訳(26年度の実績)	単位:千円	事業費計(A)				
1.国庫支出金	0	10,922	11,117	12,034	11,936	
2.都道府県支出金	0					
3.地方債	0					
4.その他	0					
前年度比増減理由:		10,922	11,117	12,034	11,936	
③ 延べ業務時間の内訳(26年度の実績)	単位:時間	正規職員従事人数	0.97	0.92	0.98	0.85
①交通安全運動、啓発活動	280時間	延べ業務時間	1,962	1,854	1,970	1,710
②交通安全教室	1,304時間	人件費計(B)	7,456	7,045	7,486	6,498
③街頭指導関係	44時間	トータルコスト(A)+(B)	18,378	18,162	19,520	18,434
④指導員派遣関係	142時間					
⑤交通安全啓発看板等	40時間					

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)
	26年度実績(26年度に行った主な活動) 交通安全の啓発活動実施。交通安全教室の実施。街頭での交通誘導及び交通指導を実施。 27年度計画(27年度に計画している主な活動) 交通安全の啓発活動実施。交通安全教室の実施。街頭で交通誘導及び交通指導を実施。	ア 啓発活動の実施回数 イ 安全教室の回数 ウ 街頭指導員が活動を実施した延べ日数	回	11	6	5	5
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)
	・市民	ア 旭市人口(4月1日現在) イ	人	69,223	68,725	68,241	67,819
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)
	・交通安全意識を高めて、交通ルールを守ろうと思う。 ・交通事故を起こさないようにする。	ア 交通事故件数 (1月～12月) イ	件	317	245	209	205
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)
	市民が交通事故被害から守られる、交通事故被害が最小限になる	ア 年間交通事故増減率 (現年交通事故増減件数/前年交通事故件数)	%	△18.5	△22.7	△14.6	△ 2.3

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
昭和45年6月「交通安全対策基本法」の制定から交通事故撲滅も目指す、国の政策に併せて、旭市においても事故防止の啓発を行ってきた。また、幼児や児童、高齢者の交通弱者を守るため交通安全教室を開始した。	少子高齢社会と車社会の進展の中で高齢者が車社会に十分適応できないこと、また、運転免許人口や自動車保有台数の増加や社会全般にわたる規範意識の低下に伴う交通ルールの無視、交通マナーの低下がみられる。今後、更に高齢者人口の増加が予想されることから、特に高齢者の事故防止対策が必要である。	・市民から子どもや高齢者などの交通弱者対策として信号、横断歩道等の設置要望がある。

